

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart

ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K. 595 (約30分) ★

Piano Concerto No. 27 in B flat major, K. 595

第1楽章 アレグロ *Allegro* 第2楽章 ラルゲット *Larghetto* 第3楽章 ロンド:アレグロ *Rondo:Allegro*

— 休憩 (20分) — Intermission

レクイエム 二短調 K. 626 [バイヤー版] (約50分)

Requiem in D minor, K. 626 (Instrumentierung Franz Beyer)

I .イントロイトゥス:レクイエム(ソプラノ、合唱) *INTROITUS, Requiem (Soprano, Chorus)*

II .キリエ(合唱) *KYRIE (Chorus)*

III .セクエンツィア *SEQUENZ*

第1曲 ディエス・イレ(合唱) *Dies Irae (Chorus)*

第2曲 トゥーバ・ミルム(ソプラノ、アルト、テノール、バス) *Tuba mirum (Soprano, Alto, Tenor, Bass)*

第3曲 レックス・トレメンデ(合唱) *Rex tremendae (Chorus)*

第4曲 レコルダーレ(ソプラノ、アルト、テノール、バス) *Recordare (Soprano, Alto, Tenor, Bass)*

第5曲 コンフターティス(合唱) *Confutatis (Chorus)*

第6曲 ラクリモサ(合唱) *Lacrimosa (Chorus)*

IV .オッフエルトリウム *OFFERTORIUM*

第1曲 ドミネ・イエズ(ソプラノ、アルト、テノール、バス、合唱) *Domine Jesu (Soprano, Alto, Tenor, Bass)*

第2曲 ホスティアス(合唱) *Hostias (Chorus)*

V .サンクトゥス(合唱) *SANCTUS (Chorus)*

VI .ベネディクトゥス(ソプラノ、アルト、テノール、バス、合唱)
BENEDICTUS (Soprano, Alto, Tenor, Bass, Chorus)

VII .アニュス・デイ(合唱) *AGNUS DEI (Chorus)*

VIII .コムニオ:ルックス・エテルナ(ソプラノ、合唱) *COMMUNIO, Lux aeterna (Soprano, Chorus)*

指揮:ユベール・スダーン *Hubert Soudant, Conductor*

ピアノ:田村 響 *Hibiki Tamura, Piano* (★演奏曲)

ソプラノ:四方 典子 *Noriko Yomo, Soprano*

アルト:山田 愛子 *Aiko Yamada, Alto*

テノール:二塚 直紀 *Naoki Nizuka, Tenor*

バス:萩原 寛明 *Hiroaki Hagiwara, Bass*

合唱:オープニング記念第9合唱団 *Opening Beethoven Commemorative Chorus*

管弦楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 *Hyogo Performing Arts Center Orchestra*

2019 6/8(土) 3:00PM開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

これさえ
見れば
わかる!

今回の聴きどころ

小宮 正安(ヨーロッパ文化史研究家)

モーツァルト最晩年の新たな旅立ち

モーツァルトの晩年というと、人気をなくしたかつてのスター音楽家が借金生活に陥り、ついには不可解な死を遂げる…といったイメージが一般的だ。だが最近の研究によれば、亡くなる直前の彼は、ウィーンの音楽界における重要ポストを手に入れ、それにふさわしい新たな作風に乗り出そうとしていた、とも言われている。

その一例が、モーツァルトが生涯にわたって数多く作ったピアノ協奏曲の中でも、最後の作品にあたる第27番。ピアニストとしての腕前を示すべく、軽やかな技巧を散りばめた従来のピアノ協奏曲とは異なって、音符の数よりも曲の透明度で勝負した。

あるいは突然の死を通じて未完のまま終わった『レクイエム』。死者の魂の救いを神に祈る歌詞ゆえに、荘厳で沈痛な曲想が支配的な中、天国から差し込む一条の光を思わせる瞬間が聴き手の魂を震わせる。オペラを思わせる劇的な要素にも事欠かず、狭い教義や時代を超えて生き続ける型破りの宗教曲だ。

必聴POINT

ライター
おすすめ!!



ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595

《技巧を極限まで抑えた静謐な喜びに浸り切る》

晩年のモーツァルトが確立しつつあった、澄み切った微笑にも例えられるかつてない新たな作風。余計なものをすべて削ぎ落とし、音楽の純粋さに向き合う喜びと、一瞬にして過ぎ行く音楽の儚さへの愛情が、静けさの中に満ちている。

レクイエム 二短調 K.626

《生と死を巡るモーツァルトの想いに共感する》

人間にとって、けっして避けて通ることのできない根本的な問題に向かい合ったモーツァルト。そこから彼が導き出した答えとは、生きている人間の喜怒哀楽を音楽の中に極限まで注ぎ込み、今までになかった死者のための祈りの曲を作ることだった。古いテキストの中からモーツァルトが導き出した人類普遍の音楽ドラマに身を委ねよう。

PROGRAM NOTE

曲目解説 —
演奏をより深く楽しむために
小宮 正安(ヨーロッパ文化史研究家)



ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595

初演: 1791年3月4日 ウィーン

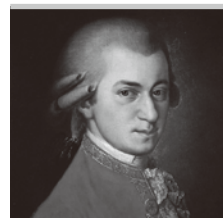
作曲者の新境地を示す、最後のピアノ協奏曲

生前、ピアニストとしても大活躍をしていたモーツァルト。そんな彼にとってピアノ協奏曲とは、自らが出演する演奏会で、演奏家ならびに作曲家としての素晴らしさを聴衆にPRするためのメディアだった。

ところが当協奏曲は1788年頃に着手されたものの、その後未完のまま放置されてしまう。この年、オーストリアがトルコを相手に戦争を始めたため、オーストリアの都であるウィーンで文化活動が下火となり、予定されていた演奏会が中止されたゆえだろう。だが1791年に演奏会の機会が巡って、急遽完成された。

というわけでこのピアノ協奏曲、モーツァルト「最晩年」の作品とは必ずしも言い切れない。それでも新たな道へ踏み出そうとしていた「晩年」のモーツァルトの特徴が、くっきりと現れている。

何しろ協奏曲といえば、オーケストラを従えた独奏者が自らの超絶技巧を示すジャンルであったところを、その逆をモーツァルトは行く。華麗さの代わりに素朴さを、複雑



作曲家プロフィール

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)

Wolfgang Amadeus Mozart

さのかわりに単純さを…。結果、別の意味で演奏者には手ごわい曲となった。シンプルな音符の向こう側に、どれほど深い音楽を読み取り、いかにそれを表現するか。さらに、独奏者とオーケストラとの親密なやりとりも欠かせない。

構成は、急—緩—急の伝統的な三楽章形式。こうした「定型」をあえて用いながらも、協奏曲の常識に風穴を開けるかのような清澄さが、全曲を支配している。

楽器編成 独奏ピアノ、フルート、オーボエ2、バスーン2、ホルン2、弦楽5部

レクイエム ニ短調 K.626

初演: 1793年1月2日 ウィーン

全ての生者と死者のための、新時代の宗教曲

冥界からの使者を思わせる謎の男がモーツァルトのもとを訪ね、死者のためのミサ曲=『レクイエム』の作曲を依頼する。だがそれを引き受けた当の本人は作曲途中で死去、後には未完の『レクイエム』だけが残された…。数々のモーツァルト伝や小説、戯曲や映画等で繰り返し語られてきた、『レクイエム』にまつわる薄気味悪い伝説である。

だが、実のところ晩年のモーツァルトは、ウィーンを中心に聳えるカトリック教会であるシュテファン大聖堂の副楽長に就任し、新たな宗教曲の作曲に燃えていた。そんなある日、高名な作曲家に曲を作らせ、それを自作と偽って演奏することを趣味としていたある伯爵が、亡き妻に捧げる『レクイエム』を代筆してくれるようモーツァルト

ザルツブルク生まれ。「神童」として幼い頃から頭角を顕わし、ヨーロッパ中で大きな話題となる。長じてからは、故郷の宮廷楽団に仕えるようになるものの、やがてそれに嫌気がさし、ウィーンでフリーランスの音楽家として活躍。現在にまで伝わる数々の名曲を残す。晩年は人気落ちたゆえに収入が少なくなり、借金まみれの生活を送ったと言われているが、実はそれも浪費癖ゆえのことで、35歳で急死する直前まで旺盛な活動を展開した。

ユベール・スダーン モーツァルトの旅 第10回 PROGRAM NOTE

に使いを出す。伯爵としては当然ながら自らの所業が明るみ出ると困るため、この件については匿名を貫いたという次第…。

こうして『レクイエム』の作曲が始まるわけだが、それにあたってモーツァルトは、あえて古今の宗教音楽を参考にした。具体的には、カトリックで中世以来歌い継がれてきたグレゴリオ聖歌、バッハやヘンデルといった当時「再発見」されつつあった前時代の音楽家の作品、さらには故郷ザルツブルクで宮仕えをしていた時代に同僚だった先輩音楽家ミハエル・ハイドン^{*}の『レクイエム』等々である。

もちろんモーツァルトが、それらを単なる「お勉強」の素材として扱うわけもない。ラテン語に基づく伝統的なカトリックの祈祷文をテキストに用いながらも、そこから死者に対する生者の慟哭、生きる苦しみ、死への恐れ等々、生と死をめぐる嘘偽りのない告白を掬い上げ、音楽として結晶させた。結果、宗教曲に相応しい沈鬱さや荘厳さが基本となっただけのもの、例えば突如、オペラの一場面を思わせるような、上品さをかなぐり捨てた劇的な場面が現れる。あるいは深い悲しみの中に、至福の楽想が一瞬射しこむ。

「レクイエム」とは、ラテン語で「安らぎを」という意味であり、元はと言えば死者の安息を神に祈る言葉だった。だがそれは、新時代の『レクイエム』たる当作品において、死者のみならず生者に向けられた言葉となる。さらに、単にキリスト教の神だけではなく、生と死という人間にとって永遠の謎をもたらした超越的な存在に対する、魂の叫びと化す。この作品が、19世紀以降に誕生する新時代の『レクイエム』の先駆的存在と言われる所以である。

なお、未完のままになったこの『レクイエム』を最終的に補筆完成させたのが、モーツァルトの助手を務めていたジュースマイアー。それを20世紀になってからさらに改訂し、オーケストラパートの充実を図ったバイヤーによる版を、本日はお聴きいただく。

※ フランツ・ヨーゼフ・ハイドンの5歳下の弟

楽器編成

独唱ソプラノ、独唱アルト、独唱テノール、独唱バス、混声四部合唱、バセットホルン2、バスーン2、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、オルガン、弦楽5部

モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

対訳：小宮 正安(ヨーロッパ文化史研究家)

I. イントロイトゥス：レクイエム INTROITUS, Requiem | 始まりの祈り

Requiem æternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

永遠の安らぎを与えてください 神様
永遠の光を あの人たちに注いでください。

Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem:

聖なる地で讃えられるにふさわしいのは神様あなただけ
あなたへの誓いが 聖なる都で果たされますように…

Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet. –

そんな祈りを 聞き入れてください
儚い身体の私たちは あなたのもとへ行く定めなのですから。

Requiem æternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

永遠の安らぎを与えて下さい 神様
永遠の光を あの人たちに与えてください。

II. キリエ KYRIE | 憐みの祈り

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

神様 憐れんでください。
キリスト様 憐れんでください。
神様 憐れんでください。

III. セクエンツィア SEQUENZ

1. ディエス・イレ Dies Iræ | 怒りの日

Dies iræ, dies illa
Solvat sæclum in favilla:
Teste David cum Sibylla.

怒りの日 その日に
世界は灰となってしまうのです。
古の預言者が告げたように。

Quantus tremor est futurus
Quando iudex est venturus
Cuncta stricte discussurus!

人々はどんなに驚くことでしょう、
裁きの神が降臨し
厳しい審判を下すその時に。

2. トゥーバ・ミルム Tuba miram | 人智を超えたラッパ

Tuba mirum spargens sonum
Per sepulcra regionum
Coget omnes ante thronum.

人智を超えたラッパの音が
墓の上に響き渡る時
死んだ人も皆 神の玉座の下に集められます。

Mors stupebit et natura,
Cum resurget creatura,
Judicanti responsura.

死も自然も驚くでしょう。
神によって創造された人々が甦り
裁き手となった神に 申し開きをするのですから。

Liber scriptus proferetur
In quo totum continetur,
Unde mundus judicetur.

書き記された書物が取り出され
そこには生前の行状がすべて述べられており
それを元に審判が下されます。

Judex ergo cum sedebit
Quidquid latet apparebit,
Nil inultum remanebit.

裁き手の神が玉座につき
隠し事もすべて明るみに出され
あらゆる事柄が裁かれます。

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus,
Cum vix justus sit securus?

哀れな私は何を申し開けるでしょうか そんな時に?
誰を頼りにすればよいのでしょうか?
正しいと言われた人でさえ 罪が暴かれるのですから。

3. レックス・トレメンデ Rex tremendæ | 恐るべき王

Rex tremendæ majestatis,
Qui salvandos salvas gratis,
Salva me, fons pietatis.

恐るべき王である神様
あなたは恵みをもって救われます 救いに値する人を。
どうか私を救ってください お慈悲をください。

4. レコルダレー Recordare | 思い出してください

Recordare, Jesu pie,
Quod sum causa tuæ viæ:
Ne me perdas illa die.

思い出してください 慈悲深いイエス様
あなたがこの世に遣わされたのは 私のためだということを。
怒りの日にも 私を破滅させないでください

Quærens me sedisti lassus:
Redemisti Crucem passus,
Tantus labor non sit cassus.

あなたは私を探して 疲れ果てた末に
十字架にかかってまで 救おうとしてくださいました。
その労苦を 無駄になさらないでください。

Juste judex ultionis
Donum fac remissionis
Ante diem rationis.

あなたは 正しい裁きをなさる方。
どうか私にお与えください お赦しを
裁きの日が来る前に。

Ingemisco, tamquam reus:
Culpa rubet vultus meus:
Suppliciante parce, Deus.

私は嘆きます 罪ある者として
ひたすら祈ります 犯した過ちを悔いながら。
赦してください 神様。

Qui Mariam absolvisti
Et latronem exaudisti,
Mihi quoque spem dedisti.

あなたは罪ある女を赦されました
凶悪な盗人の願いも聞き入れられました。
ですから私にも 希望を抱かせてください。

Preces meæ non sunt dignæ,

私の祈りは 完璧ではありません。

Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.

それでもあなたは慈悲深いお方
どうか私を焼き尽くさないでください 地獄の業火の中で。

Inter oves locum præsta,
Et ab hædis me sequestra,
Statuens in parte dextra.

この私を 加えて下さい
滅びゆく山羊の群れではなく
永遠の生命に生きる羊の群れの中へと。

5. コンフターティス Confutatis | 呪われた者

Confutatis maledictis
Flammis acribus addictis:
Voca me cum benedictis.

呪われた者を退け
地獄の業火に突き落とすことがあっても
私を招き入れてください 祝福された人々とともに。

Oro supplex et acclinis,
Cor contritum quasi cinis:
Gere curam mei finis.

あなたの前にひれ伏します
ぼろぼろになった心で祈ります。
私を顧みてください 終わりの時に。

6. ラクリモサ Lacrimosa | 涙の日

Lacrimosa dies illa,
Qua resurget ex favilla
Judicandus homo reus.

涙の日
その日 人は土から蘇り
犯した罪を裁かれます。

Huic ergo parce Deus:
Pie Jesu Domine,
Dona eis requiem. Amen.

どうかお赦してください 神様
慈悲深いイエス様
あの人たちに安らぎをお与えください。心から祈ります。

IV. オッフエルトリウム OFFERTORIUM | 主なるイエス様

1. ドミネ・イエス Domine Jesu | 主なるイエス様

Domine Jesu Christe, Rex gloria,
libera animas omnium fidelium
defunctorum de poenis inferni et de
profundo lacu:
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum:
Sed signifer Sanctus Michael
repræsentet eas in lucem sanctam:
Quam olim Abrahæ promisiisti et
semini ejus.

主なるイエス様 あなたは栄光の王。
解き放ってください 亡くなった者すべての魂を
地獄の罰と深い淵の底から。
解き放ってください あの人たちを獐猛な獅子の牙から。
彼らが地獄で滅びることがありませんように
闇の中へ陥ることがありませんように。
聖なる天使に導かれて
聖なる光を見ることができますように。
あなたはそう約束してくださいました 信仰の父とその子
孫たちに。

2. ホスティアス Hostias | 犠牲の祈り

Hostias et preces, tibi,
Domine, laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
fac eas, Domine, de morte transire ad
vitam.
Quam olim Abrahæ promisisti et
semini ejus.

犠牲の祈りと 賛美の祈りを
神様 あなたに捧げます。
どうかこの祈りを受け取ってください
今日 私たちが思い出す人々のために。
そして神様 彼らを死から救い出し
生命の希望をお与えください。
あなたはそう約束してくださいました
信仰の父とその子孫たちに。

V. サンクトゥス SANCTUS | 感謝の祈り

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth!
Pleni sunt cœli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

感謝します 感謝します 感謝します...
神様 全てを支配されている神様。
天国もこの世も あなたの栄光に満たされています。
何て素晴らしい あなたの住まわれる高みは。

VI. ベネディクトゥス BENEDICTUS | 祝福の祈り

Benedictus, qui venit in nomine
Domini.
Hosanna in excelsis.

祝福がありますように 神様に託され
私たちを訪ねてくる人に。
何て素晴らしい あなたの住まわれる高みは。

VII. アニュス・デイ AGNUS DEI | 神の子羊

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem sempiternam.

神の子羊 あなたは世の罪を取り除かれるお方です
どうか あの人々に安息を与えてください。
神の子羊 あなたは世の罪を取り除かれるお方です
どうか あの人々に安息を与えてください。
神の子羊 あなたは世の罪を取り除かれるお方です
どうか あの人々に安息を与えてください 変わることなく。

VIII. コムニオ: ルックス・エテルナ COMMUNIO: Lux æterna | 共に捧げる祈り

Lux æterna luceat eis, Domine:
Cum Sanctis tuis in æternum:
quia pius es.
Requiem æternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Cum Sanctis tuis in æternum:
quia pius es.

永遠の光をあの人たちに注いでください。
聖なる人々とともに 永遠の憩を与えてください
あなたは慈悲深い方なのですから。
永遠の安らぎを与えてください 神様
永遠の光を あの人たちに注いでください。
聖なる人々とともに 永遠の憩を与えてください
あなたは慈悲深い方なのですから。